

市川自然博物館

12・1月号

(通巻第16号)

だより



～ タゲリ ～

タゲリは、冬を過ごすため大陸から飛来し、数羽から数十羽の群れで、広い湿田で生活します。ハトぐらいの大きさで、後頭部に伸びる反り返った長い冠羽と、緑色にぶく光る羽が特徴です。

たいへん警戒心が強く、近づくと「ミュー」という猫に似た声を発して舞い上がり、ふわふわとはばたいて飛び去ります。

水田の埋め立てが進む今日、タゲリがゆっくりと安心して冬を過ごすことができる広い湿田も市内ではごくわずかになりました。

特集 家の中から

町のなかでは、野鳥は最も身近な野生動物です。警戒心が強いので、なかなか近くで観察することはできませんが、冬はえさが少ないので、えさ場をつくると集まってきます。近くで野鳥をじっくりと観察してみましょう。

☆鳥を近くに呼ぼう

・えさ場をつくらう

まずは、えさ場をつくってみましょう。ベランダや庭の、どこでもいいのですが、3つの点に注意してつくってみましょう。

①. いつも同じ場所にえさを置く

鳥にえさの場所を覚えてもらうことが大切です。家の中から見えるところにおいてやると、鳥を驚かさずにじっくり観察することができます。

②. えさを、絶やさずに置く

ひと冬根気よく続けましょう。春には思わぬ種類がやって来るかも・・・。

③. 鳥を驚かさない

えさをおいたら、すぐに室内にもどってそっと見守りましょう。

・水場もつくらう

鳥には飲むための水だけではなく、体を清潔にしたり、体温調節をしたりするための水浴びをする水場も、欠かせません。

鳥が集まって来るようになるまでには、数日か数週間かかるかも知れません。気長に、根気よく続けてみましょう。

ベランダにも

集まるよ

カーテンごしになるべく動かずじっとしていよう



野鳥観察



鳥が集まるようになったら・・・

☆観察のポイント

・どんな種類がくるだろう

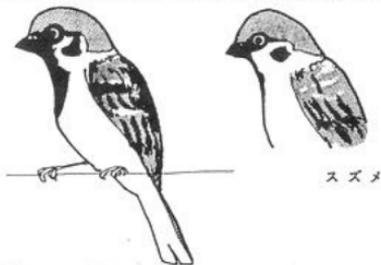
たいていまず最初に来るのは、スズメです。町の中では、ヒヨドリやキジバトも来る可能性があります。

・行動をみよう

飛んできてすぐにえさをたべましょうか。けんかも、同じ種類どうしの時と違う種類どうしの時では、違います。時には、じっくりと、鳥たちの行動を観察してみましょう。安心してくと、鳥たちはいろいろな行動を見せてくれます。

・からだの模様

たくさん集まってきたスズメ。みんな同じ模様でしょうか。スズメはほおの黒い点や首の白い輪などに個体差があるようです。



・訪れる時刻

毎日決まった時刻に決まった種類が訪れるでしょうか。観察メモをつけてみましょう。



・えさ

いろいろなものを置いてみましょう。違うえさには違う鳥がやって来るかもしれません。食べ方は、鳥の種類や、幼鳥・成鳥で、同じでしょうか。



ずっと来るようになったら・・・

季節による、種類の違いや幼鳥・成鳥での模様や行動の違いなども観察のポイントです。えさのたくさんある時期とない時期では、訪れる時刻も変わってきます。

またえさ場に鳥が訪れない時はどこにいるのか、家のまわりで探してみましょう。



おじゃまします!



街かど自然探訪

大町・国分川の源流地

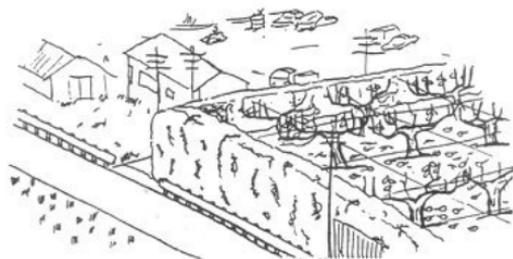
市川市の西部を北から南へ流れる国分川は、上流へさかのぼると松戸市内で大きく東に曲がり、松戸市紙敷に至ります。紙敷に近い市川市大町に、源流のひとつが、昔ながらの姿で残っています。

北総線の大町駅にほど近い場所にある源流は、ヒノキなどの多い民有地の林です。林の中で湧き出た水は澄み、たっぷり水を含んだ厚い落ち葉の間からしみだします。小さな流れとなった湧き水は、木々の間をぬって流れだし、国分川となるのです。

湧水や小川は市内に今も多くありますが、本来の源流の姿を今に伝えるのはここだけです。



大和田・江戸川べりの梨畑



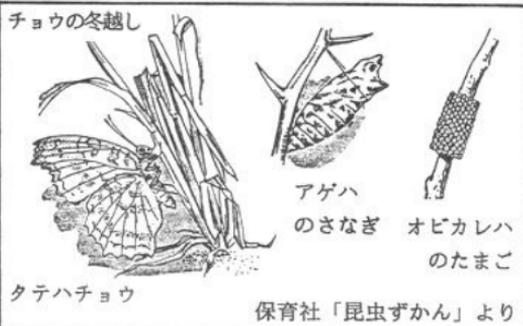
市川市の特産品である梨は、現在は市の北部、台地にひろがる梨畑でつくられています。かつては八幡周辺をはじめとする低地でつくられていました。多くの梨畑が北部に移り、梨畑があった場所は住宅地にかわっていきました。

現在、低地に残る梨畑はわずかです。宮久保、曾谷、東菅野などのほか大和田の江戸川べりにもあります。江戸川の堤防にのぼると、小さな梨畑が住宅に囲まれてある様子がよくわかります。来春、満開のころの梨畑を堤防の上から眺めると、きれいでしょ。

市川の こん虫 冬越し



12月になると、市内でもほとんど昆虫の姿を見かけなくなります。しかし、昆虫たちは、樹の幹や枝の中、枯れ草の茎、落ち葉の下、土の中、そして家の中などで、厳しい冬を越しています。冬越しの姿はさまざまで、コオロギやカマキリは卵、カブトムシやクワガタ



保育社「昆虫ずかん」より

ムシは幼虫、アゲハチョウやモンシロチョウはさなぎ、そしてアリやテントウムシは成虫で冬を越します。博物館のある大町周辺でも11月下旬になると何十匹というテントウムシ(ナミテントウという種類)がどこからともなく集まってきて集団をつくり、樹の幹や落ち葉の下で冬を越す姿が見られます。皆さんもこの冬は市内のあちらこちらで、冬越しをしている昆虫たちをさがしてみましょ。

むかしの市川 ～ その13 ～

貝灰のはなし

市川市の南部には、古くから貝灰を製造する工場がいくつもありました。江戸時代あるいはもっと昔からでしょうか。貝灰は近くの海で採れるハマグリなどをむきみにするときにでる、たくさんの貝殻を炉で焼いて作られ、壁の上塗りにするしっくい材料として使われました。

江戸時代は世の中が安定し、江戸の町は経済活動が発展しました。人口も百万を越えたので、建築材料としての貝灰の需要は多かったことでしょう。江戸に近いこの地域の貝灰工場は大いに栄えました。



昔は町のあちこちに、むきみを作ったあとの貝殻の山があった。



明治以降は、石灰石から作る消石灰にとってかわられ、貝灰工場もだんだんと少なくなり昭和46年頃を最後になくなってしまいました。

(博物館指導員 玉置善正 記)



12月もなかばを過ぎると紅葉も終わり、落葉樹はすっかり葉を落としてしまいます。観察園の斜面林も、見通しがよくなって、何だか寒々としています。

林をのぞきこむと、奥深い林のように見えていた斜面林も急な斜面にまばらに木の生えた、細長い林なのがよくわかります。見上げると台地面の真っ直ぐな線が見えます。湿地からの高さの差は約13~14mで、台地の上は梨畑や住宅地に利用されています。

林の縁には、冬でも葉をしげらせた常緑樹のシロダモヤアオキがまっ赤な実をつけていても鮮やかです。林の中

では、シダのなかまのベニシダやヤブソテツなどが葉を大きくひろげて、その形の美しさを見せています。

冬の観察園では、林の中をのぞきながら歩くのもおもしろいです。



行徳野鳥観察舎 だより



ジョウビタキの災難

ジョウビタキがあちこちで鳴いている。今年は長雨のせいか例年より到着が遅れたが、ヒッヒッという高い声は近づく冬を思わせる。

11月9日のこと。近くの小鳥店からジョウビタキの雌が入院した。渡ってきたばかりのこの時期は室内に飛び込むものがよくいる。窓に映る自分の姿を攻撃するのかもしれない。この鳥は軽く窓にぶつかっただけで特に外傷はなかったが、少々ぼうっとしているので、ひと晩様子をみようとかごに入れた。夜、餌をたべさせようとしたとたん、するっと脱走。あわや、というところでおさえたつもりが、手の中にござりと抜けた尾羽が!!



文と絵・蓮尾純子

翌朝、尾なしになったジョウビタキに足輪をつけて放した。悪夢のような一夜だった。

スライドによる 自然講座



市川の身近な自然について、博物館所蔵の数々のスライドを使って、
わかりやすくご紹介いたします。

講師 学芸員 金子謙一

時間：午後 6 時～ 8 時

会場：市民談話室 (JR本八幡駅北口徒歩1分)



*駐車場はございませんので、お車での来場はご遠慮ください。

1 月 24 日 (金)

もっと² トビハゼ

— スライド編 —

江戸川放水路に生息するトビハゼの一年を、ユニークな行動やしぐさをうつつた写真で、紹介します。

1 月 25 日 (土)

市川の山野草

— 珍品・稀品も公開 —

「こんなものが市川に!？」という珍しい種類をはじめ、市内に生ずるいろとりどりの山野草を紹介します。

1 月 31 日 (金)

市川の川を下る

— 源流から河口まで —

湧き水が小さな流れをつくり、水田の間を抜け真間川に合流し、東京湾へ流れこむまでの周囲の自然を紹介します。

2 月 1 日 (土)

日頃、日の目をみない動植物

見た目は綺麗でも美しくもないバツとしない動植物を、この機会に一挙に紹介します。

各回とも申込みは不要です。お気軽にご参加下さい。

なお、詳しいお問い合わせは 自然博物館 ☎0473-39-0477 へ

☆☆ 自然博物館の行事案内 ☆☆

「2月の自然観察会」

1. 日時 2月9日(日)
午前9時30分～11時30分
2. 場所 大町自然観察園
3. 内容 観察園で冬みられる鳥を観察します。
4. 申込み期間 1/27～2/1
5. 定員 20名

*申込み方法

往復はがきに参加者全員の住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ、自然博物館までお送り下さい(期間内必着)。
なお、先着20名様にて締め切らせていただきますので、御了承下さい。



☆☆☆☆☆☆

おしらせ

☆☆☆☆☆☆☆☆

●休館日のご案内

12月23日(月)の天皇誕生日は開館し、24日(火)は休館となります。

また、年末年始の休館日は12月28日(土)より1月4日(土)までとなります。どうぞお間違えないようお願いいたします。



●楽しいおたよりおまちしています

身近な自然に関する情報や疑問、「博物館だより」の感想など、何でもけっこうです。おまちしています。

市立市川自然博物館だより
第4巻 7号 (通巻第16号)

発行日/ 平成3年12月1日

編集・発行/ 市立市川自然博物館

〒272 千葉県市川市大町 284番地

☎ 0473(39)0477

次号は2月1日発行